

安全上の注意

■用途：本製品は、一般家庭用の電気温水器、小型ボイラーに用いるものです。流体は水道水(冷温水)以外に使用される場合は、本社又は、最寄りの営業所へご相談ください。

■安全のために必ずお守りください。

ご使用前にこの「安全上の注意」をよくお読みのうえ正しくお使いください。この説明書では、機器を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産の損害を未然に防止するための表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

	危険	この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
	警告	この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	注意	この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が重傷を負う可能性が想定される内容、及び物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

また、お守りいただく内容を次の絵表示で説明しています。

	この絵表示は、してはいけない「禁止」の内容です。		この絵表示は、必ず実行していただく「強制」の内容です。
--	--------------------------	--	-----------------------------

使用に関する危険

危険 針金等で逃し弁の手動レバーを固定しないでください。
(逃し弁が正常作動(吐水)せず缶体部回りから水漏れを起こしたり、缶体破損を起こし危険です。)

使用に関する注意

注意 発泡スチロール製保温箱は、はずさないでください。
(内部の水の凍結によって部品が変形・破損し圧力設定が不良になり缶体に悪影響を与えたり、大量の水が漏水する可能性があります。)

手動レバーを月に1~2回操作し、水を吹き出させてください。
(缶体に悪影響を与えたり、作動不良の原因を取り除くために必要です。)

設置に関する警告・注意

警告 分解したり、調節ねじを動かさないでください。
(圧力設定が不良になり、缶体に悪影響を与えたり、大量の水が漏水する可能性があります。)

減圧弁を使用する場合は、必ず次の組み合わせで使用してください。

逃し弁吹き始め圧力	減圧弁設定圧力	単位
95 (0.95)	65, 80 (0.65, 0.80)	kPa/kgf/cm ²
97 (0.97)	65, 80, 85 (0.65, 0.80, 0.85)	
190 (1.90)	120, 150, 170 (1.20, 1.50, 1.70)	

(組み合わせが不適切の場合、缶体に悪影響を与えたり、大量の水が漏水する可能性があります。)

注意 液状などのシール剤を使用して配管する場合は、シール剤が逃し弁内に流れ込まないように注意してください。
(ダイアフラムの破損による水漏れや、作動不良の原因になります。)

スパナ等は弁箱出口側の締付ボス(2面)以外には絶対にかけないでください。
(部品が変形・破損し、水漏れの原因になります。)

床面の防水処理、排水処理を必ず実施してください。
(水漏れが起きた場合、大きな被害の原因になります。)

弁箱の矢印を流体の流れ方向に合わせて取り付けてください。
(逃し弁の吹き始め設定圧力値の圧力がかかっても吹き出さなくなり缶体に悪影響を与えます。)

逃し弁設置後、発泡スチロール製保温箱を取り付けてください。
(逃し弁内部の水が凍結し、内部部品が変形・破損し、圧力設定が不良になり缶体に悪影響を与えたり大量の水が漏水する可能性があります。)

逃し弁の出口側配管(排水側)は、必ず吐水口空間を設けて排水溝へ流してください。
(負圧発生時、逃し弁の二次側配管から排水が逆流する可能性があります。また、屋内設置の場合、排水処理が確実にされていないと屋内の床が水びたしになる可能性があります。)

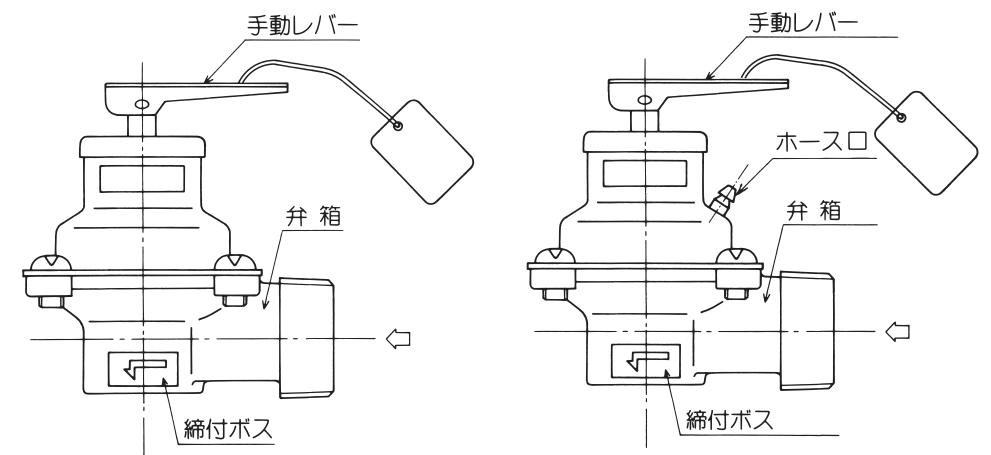
設置方法

- 配管内のゴミ、砂、油等を除去してから取り付けてください。
(配管内の異物・油が原因で、吹き止り不良となり逃し弁から常時吐水します。)
- 注意** 弁箱の矢印を流体の流れ方向に合わせて取り付けてください。
- 逃し弁は、減圧弁より高い位置に取り付けてください。
(ヘッド圧力により、逃し弁の吹き止り圧力より、減圧弁の二次側圧力の方が高圧になり、逃し弁から常時吐水します。)
- 逃し弁を取り付けた直後、逃し弁が吹き止まらない場合、湯水混合栓配管側からの逆流も考えられるためこの場合、逆流をしていないかよく確認してください。
(混合栓の逆止弁が異物カミしている場合、逃し弁には吹き止り圧力以上の圧力がかかるため、逃し弁は、常時吐水します。)
- 注意** 逃し弁の出口側配管は、必ず吐水口空間を設けて、排水溝へ流してください。又、DE20-M、DE20-MS使用の場合は、付属ホースをばねカパーホース口部にはめ込み、ホースバンドで固定し、排水溝へ流してください。
- 注意** 逃し弁設置後、発泡スチロール製保温箱を取り付けてください。
- 給湯機の試運転時、逃し弁の接続部などの点検を行ない、漏れのないことを確認してください。

点検方法

- 注意** 手動レバーを月に1~2回操作し、水を吹き出させてください。
もし、手動レバーを操作しても水が吹き出さない場合は、作動不良ですのでただちにご使用をやめ、給湯機をお買いになったところへ連絡し、専門業者に処置してもらってから使用してください。
- 手動レバーを操作し水を吹き出させた後は、手動レバーを必ず元の位置に戻し、止水を確認してください。
(手動レバーが立ったままの状態ですと大量の水が逃し弁から吐水し、給湯機の機能を低下させます。)
- 逃し弁や逃し弁の接続部などから水漏れがないか確認してください。
もし漏れを見つけた時は、給湯機の給水栓を止め給湯機をお買いになったところへ連絡し、専門業者に処置してもらってから使用してください。

各部のなまえ



※図はDE20-M・MSを示します。

KKK 兼工業株式会社

本 社 工 場 〒485-0802 愛知県小牧市大草2036番地

■お客様相談窓口

本 社	TEL (0568)79-2476(代)	名 古 屋	TEL (0568)79-8387
札 幌	TEL (011)788-2712	大 阪	TEL (06)6541-2040
仙 台	TEL (022)290-8910	広 島	TEL (0829)20-5151
東 京	TEL (03)3635-4541(代)	福 岡	TEL (092)472-9106

当社ホームページへアクセス
URL: <https://www.kanevalve.co.jp>

